

能勢電鉄沿線エリアが舞台の芸術祭「のせでんアートライン」。里山の自然や、まちの魅力を体感するワークショップが開催されました。完成した作品などは、「収穫祭」イベントで展示します。



体感型アートが 続々と完成!!

問合せ

のせでんアートライン
妙見の森 実行委員会
「はったにステーション」
☎ 080(3766)2097

作れる・参加できる芸術祭に約 1,000 人

能勢電鉄の沿線やその周辺の地域を舞台にした芸術祭「のせでんアートライン 2017 里山の学校芸術祭」のウエルカムイベントが、7月22日～8月27日に行われました。2年に1度開催されるこのイベントは、今年で3回目。川西市、猪名川町、能勢町、豊能町の各エリアの参加型のアートワークショップに、1,000人以上が参加し、作品制作や体験を楽しみました。

アート通じて感じる里山の魅力

市内では川西能勢口エリアと黒川エリアが舞台。黒川公民館ではアーティストのヴィヴィアン佐藤さんを招いて「くろかわDQプロジェクト」を開催しました。用意された造花や付け毛などを使ってオリジナルのウィッグ(かつら)を作成。個性あふれるウィッグを付けた参加者は、里山の自然や素朴な雰囲気が残る公民館で撮影会を行い、街中では見られない景色を満喫しました。

また同時に開催された「くとのき」では彫刻家の武田俊彦さんと参加者が、300*の粘土で黒川にある台場クヌギを作成。参加した子どもたちは、実際に目にした台場クヌギをイメージして、粘土のカタツムリを作ったり、木に顔を作るなど、思い思いに工夫を凝らしていました。

作品を一挙公開！
見て体感する展覧会

10月28日(土) - 11月5日(日)

場所：黒川公民館、妙見山(予定)

7月22日～8月27日に開催したアートワークショップの作品や、制作過程の映像を展示します。



1_ 旧黒川小学校の木造校舎で 2_ 自ら作成したウィッグを披露するヴィヴィアン佐藤さん 3_ 里山にあるもので「楽器じゃないもの」を作って演奏 4_ 「凧を開放してあげる」ワークショップ 5_ 手に取って見ることでできない国宝のレプリカを、昔の人と同じように鑑賞 6_ 運動場や畑、神社。どこにでも行けるエレベーター 7_ 制作時間は3時間。おとなチームと子どもチーム、それぞれの「くとのき」

CHECK & QUIZ 次の空欄(○の中)を埋めてください。

1:キセラ川西○せらぎ公園 2:黒川ダリア園は9月○日オープン
クイズ正解者の中から図書カード(1,000円分)を5人に差し上げます(正解者多数の場合は抽選。当選者のみに送付します)。応募方法:ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、興味のある記事と感想を書き、9月11日(月)(消印有効)までに〒666-8501・かわにし魅力推進室「クイズ」係へ。
※8月号の正解は(祭)(花)で、71通の応募がありました。

7月末現在の人口

男.....75,527人(-78)
女.....83,649人(-21)
計.....159,176人(-99)
世帯数...69,555世帯(-7)

